

トランスクリプト

## 司会：冒頭のあいさつ

それでは、お時間となりましたので、東京エレクトロン株式会社 2022年3月期の決算説明会を開始いたします。本日はお忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。わたくし、司会進行を務めます、IR室の八田です。よろしくお願いいたします。

それでは、出席者の紹介をいたします。取締役会長 常石哲男でございます。

**常石：**常石でございます。6月総会にて退任いたしますけれども、それまでにまた皆さんとお会いする機会があるようでございます。その時にまたご挨拶したいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

続きまして、そのお隣、代表取締役社長・CEO 河合利樹でございます。

**河合：**河合でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、取締役 専務執行役員 Global Business Platform 本部長 ファイナンス担当 布川好一でございます。

**布川：**布川でございます。よろしくお願いいたします。

プレゼンテーションに先立ち、わたくしから、本日の会の流れについてご説明させていただきます。これより、布川、河合のプレゼンテーションをお聞きいただきます。その後 18:00 まで、質疑応答のお時間を設け、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。本説明会は、Webex を 2 回線使い、日英の同時通訳でおこなっております。先日、メールでご案内させていただいた通り、音声のみお聞きになりたい方は、電話でも参加いただけますが、ご質問されたい方は、PC もしくはモバイル端末のアプリをお使いください。また、本説明会は機関投資家様・アナリスト様向けの説明会となっております。大変申し訳ございませんが、回答は、従来通り機関投資家・アナリストの方々のご質問に限らせていただきます。本説明会につきましては、後日、日英の音声配信をホームページ上に掲載しますので、こちらも併せてご利用ください。

それでは、はじめに、取締役 専務執行役員 布川より、「連結決算の概要」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

## 2022年3月期 連結決算の概要

布川 好一（取締役 専務執行役員 Global Business Platform 本部長）

こんにちは。ファイナンス部門を担当しております布川でございます。では、早速、2022年3月期 連結決算の概要について、ご説明いたします。

### FY22 財務ハイライト：スライド4

こちらは、2022年3月期の業績ハイライトになります。

FY2022 は、SPE 需要の急速な拡大を受け、また、その需要の増加に確実に対応できたことから、売上

## トランスクリプト

高は、2兆38億円と、前期比+43%の増収となり、初めて2兆円を超える規模となりました。

売上総利益は9,118億円、売上総利益率は45.5%、営業利益は5,992億円、営業利益率は29.9%、売上高とともに、いずれにおいても、過去最高を大きく更新いたしました。

またROEにつきましても、中期経営計画の目標である"30%以上"を大きく超える、37.2%となりました。

### 損益状況：スライド5

こちらは、損益状況のスライドです。

売上高につきましては、さきほどご説明しました通り、前期比43.2%増加の2兆38億円となり、2月10日に発表した予想を538億円上回りました。セグメント別に見ますと、SPE売上高は、1兆9,438億円と、予想を上回る着地となりました。FPD売上高につきましては、前期比28.6%減少の598億円と、ほぼ予想通りとなりました。

売上総利益率は、売上の増加に伴い、前期比5.1pts増加の45.5%。営業利益率につきましては、先ほど述べた売総率の上昇に加え、販管費比率の減少を受けまして、29.9%と、前期から7.0pts上昇いたしました。一株当たり当期純利益は、利益の拡大を受け、2,807円と、過去最高となりました。

### 損益情報（四半期）：スライド6

こちらは四半期ごとの損益状況になります。

第4四半期の売上高は、前四半期比11.5%増加の5,648億円となり、四半期売上としても、過去最高となりました。SPEについては、売上高は5,492億円となり、前四半期比で12.4%増加いたしました。急速な市場拡大に対応したプロアクティブな調達と生産を実行し、需要の増加を着実に取り込むことができたことで、FY2022は期を追うごとに売上が拡大いたしました。FPDにつきましては、前四半期比12.1%減少し、155億円となりました。

売上総利益率は、45.3%。営業利益率は、29.8%と、前四半期比で減少しておりますが、こちらは、研究開発費等の販管費の計上タイミングによるものであり、引き続き高い水準を維持しております。

### セグメント情報：スライド7

続きまして、セグメント情報について、ご説明いたします。

SPEにおきましては、売上1兆9,438億円に対し、セグメント利益6,674億円、セグメント利益率は34.3%となりました。新規に獲得したPORの売上貢献も進み、高い利益率を確保することができ、過去最高の利益率となりました。

FPDにつきましては、売上598億円に対し、セグメント利益38億円、セグメント利益率は、6.5%となりました。顧客の設備投資の調整に伴う売上減少により、利益率も低下しておりますが、引き続き成長投資を継続しております。

売上構成比としましては、SPE売上の増加を受け、SPEが97%、FPDが3%となりました。

### SPE部門 新規装置 製品別売上構成比：スライド8

## トランスクリプト

こちらは、SPE部門の新規装置の、製品別売上構成比になります。

FY2022の新規装置の売上は、前期比56%増加の14,990億円となりました。昨年CY2021の主力装置におけるシェア上昇に加え、急速な需要の拡大への対応が奏功し、すべての製品において売上は前期比で増加いたしました。

### **SPE部門 新規装置 アプリケーション別売上構成比：スライド9**

こちらは、前ページと同様の新規装置売上を、アプリケーション別に示したものです。

FY2022は、すべてのアプリケーションにおいて、売上が増加いたしました。特に、ロジック/ファウンドリおよびDRAMの売上が大きく伸長しました。ロジック/ファウンドリにおいては、昨年CY2021は、最先端から成熟世代にかけて幅広い世代における旺盛な投資が、売上に寄与しました。また、DRAMにおいては、顧客の設備投資の回復に加え、新たに獲得した新規PORが売上に貢献しております。

### **フィールドソリューション売上：スライド10**

続きまして、フィールドソリューション売上高になります。

FY2022の売上高は、前期比26%増加の4,559億円となりました。インストールベースの増加に加え、顧客工場の高い稼働率を背景に、パーツ・サービスの売上は、前期に引き続き堅調に推移しております。当期においては、旺盛な成熟世代向けの需要に牽引され、改造の売上も前期比で大きく増加いたしました。

### **貸借対照表（四半期）：スライド11**

続きまして、貸借対照表になります。

資産合計は、1兆8,944億円。現金同等物は、3,712億円。売上債権及び契約資産は、4,339億円。

棚卸資産につきましては、今後の販売計画を見据えた調達・生産戦略の実行が影響し、4,738億円と、前四半期から増加いたしました。

負債は、5,474億円。純資産は、1兆3,470億円となりました。また、自己資本比率は、70.5%となりました。

### **棚卸資産・売上債権の回転日数：スライド12**

こちらは、棚卸資産と売上債権の回転日数になります。

棚卸資産回転日数は、前四半期から変わらず、86日となりました。売上債権回転日数については、売上債権の増加を受けまして、前四半期より増加の、79日となりました。

### **キャッシュ・フロー：スライド13**

最後に、キャッシュ・フローになります。

営業キャッシュ・フローは、▲371億円。主に、売上債権の増加によるものであります。投資キャッシュ・フローは、▲207億円。財務キャッシュ・フローは、▲2億円。フリーキャッシュフローは、▲579億円となりました。

トランスクリプト

以上、連結決算の概要についてご報告させていただきました。ありがとうございました。

**司会：次のプレゼンテーションの紹介**

それでは、続きまして、CEO 河合より、「事業環境および業績予想」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いいいたします。

**事業環境および業績予想**

河合 利樹（代表取締役社長・CEO）

改めまして、河合でございます。わたくしの方からは、「事業環境および業績予想」についてご説明申し上げます。

**FY2022 事業ハイライト：スライド 15**

まず、FY2022 通期の事業ハイライトについてご説明します。

先ほど、布川から報告いたしましたとおり、FY2022 は、売上高、利益など、すべての項目において過去最高を更新しました。FY2024 年 3 月期までを目標としていた、売上 2 兆円、営業利益率 30%、ROE30%以上という財務モデルを 2 年前倒しで達成しました。付加価値の高い戦略製品で、POR、装置選定を順調に獲得し、売上、利益、主力製品のマーケットシェア向上に寄与しました。フィールドソリューションにつきましても、顧客の高い稼働率を背景に、改造、パーツ・サービスの需要が引き続き強く、初めて、年間で 4,500 億円を上回る売上となりました。

半導体をはじめとする、世界におけるさまざまな部材不足の状況は継続しておりますが、このような中でも、パートナー企業の多大なご協力のもと、需要に対応できたことが、2 兆円の売上達成につながったと考えています。また、将来の成長を見据え、過去最大規模となる研究開発投資、設備投資を実行いたしました。

**CY2022 事業環境（2022 年 5 月時点での見方）：スライド 16**

次に、事業環境についてです。

CY2022 の WFE 市場に関しましては、前回、2 月の決算報告時より若干強く、2 割程度成長すると見込んでいます。引き続き、データセンターなどの、社会のデジタルシフトの進展による力強い半導体需要に牽引され、幅広い世代向けの投資が継続すると期待されます。

FPD TFT アレイ工程向け製造装置市場については、見方に変更ございません。CY2022 は、前年比微増を見込んでいます。

**CY2022 アプリケーション別の WFE 市場環境：スライド 17**

続きまして、WFE 市場のアプリケーション別の見通しについて、足元の、お客さまの投資動向を反映し、スライドのとおり変更しております。

## トランスクリプト

ロジック/ファウンドリは、前回、20%強の成長を見込んでいたものを若干上方修正し、前年比 25%程度の増加に変更しました。

DRAMにつきましては、見方に変更はなく、15%程度の増加を見込んでおります。

不揮発性メモリにつきましては、前回 5%程度の成長を見込んでいたものを、今回、10%程度の増加に変更しました。

### **FY2023 業績予想：スライド 18・19**

次に、FY2023の業績予想について説明いたします。

FY2023は、通期で、売上高 2兆 3,500億円、売上総利益 1兆 750億円、営業利益 7,160億円、当期純利益 5,230億円と、いずれも過去最高となる見込みです。

通期の利益率につきましても、売上総利益率 45.7%、営業利益率 30.5%と、過去最高となる見込みでございます。

### **FY2023 SPE 部門 新規装置売上予想：スライド 20**

次に、FY2023のSPE部門 新規装置の売上予想についてご説明します。

ご覧の通り、上期は8,500億円、下期は1兆円の大台に到達する見込みでございます。通期の新規装置売上は、前年比 23%増加の、1兆 8,500億円となる見込みでございます。

### **FY2023 研究開発費・設備投資計画：スライド 21**

次に、研究開発費と設備投資の計画です。

FY2023は、いずれも過去最高となる見通しで、研究開発費は、前期比 20%増の 1,900億円、設備投資は同 30%増の 750億円を計画しています。また、減価償却費につきましては 460億円を見込んでおります。3月31日に、熊本県に、新開発棟を建設することを発表しましたが、加えて本日、新たに、宮城県の新開発棟に関しましてもプレスリリースいたしました。拡大する市場と、多様化する最新の技術ニーズに応えるため、積極的な研究開発と設備投資を加速していきます。

### **FY2023 配当予想：スライド 22**

次に、配当予想についてですが、今期の業績予想と、配当性向 50%に基づき、1株当たりの配当は、通期で 1,678円を予定しております。こちらも、過去最高の配当額となる見込みでございます。

### **中期経営計画：スライド 23**

以上のとおり、当社は、2019年に策定しました、売上高 2兆円を想定した財務モデルを、2年前倒しで達成いたしました。

さらなる成長、企業価値向上を目指し、新中期経営計画を策定中です。

来月、6月8日に、新中期経営計画説明会をオンラインで開催します。後日、事務局よりご案内申し上げますが、皆さま、ぜひ、ご参加いただければ幸いです。

私のプレゼンテーションは以上です。どうもありがとうございました。